

令和7年度【大田区立東調布第一小学校・家庭科授業改善推進プラン】

◎ 小学校家庭科における分析

児童の実態	知識・技能	- 生活の中で、日常生活に必要な衣食住、消費や環境についての情報を得る機会が多いが、実生活に生かすことが十分ではない。 - 包丁やミシンの扱い方、手縫いなど技能について個人差が大きい。
	思考・判断・表現	- 製作や調理、実践的な学習は、工夫しながら楽しく取り組むことができる。 - 実生活の中から問題を見出して、適切に判断する力はまだ十分身に付いていない。
	主体的に学習に取り組む態度	- 実生活につながる学習が多いため、自分自身の生活を振り返りどのようにしたら快適に過ごせるか積極的に考える児童が多い。 - 家庭生活の個人差が大きく、生活の中で製作や調理など実践し、活用する機会が少ない。

◎ 家庭科の課題

- ・家庭生活に必要な基礎的・基本的な知識と技能を身に付ける。
- ・生活の様々な場面において自分で考え、適切に判断する力を身に付ける。
- ・家庭生活を大切にしている心情を育む。
- ・体験的・実践的学習を重視する。
- ・環境に配慮した学習活動を展開する。
- ・物に対する愛着をもたせ、大切にしようとする心情を育む。

◎ 家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取組における成果◇と課題◆

- ◇6年生は、布を使った製作において、自分の思いや願いを大切に、一人一人計画を立てて実践していくように題材を設定したことにより、積極的に取り組むことができた。
- ◇5年生は、段階を追って具体的な目標を設定し、基礎的・基本的な事項をくり返し練習することにより、知識・技能を身に付け、意欲的に学習することができた。
- ◆自分の課題や家庭での役割に気付き、生活をよりよくしていこうとする態度は不十分である。
- ◆学習したことを自分なりに工夫し、家庭での実践をすすんで取り組み、継続的に実践しようとする力が十分ではない。
- ◆特に実習では個人差が大きいので、個に応じた手立てや支援が必要である。

◎ 家庭科の具体的授業改善案

- 家庭生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を定着させるために、繰り返し学習など学習方法を工夫する。
- 一人一人が見通しをもち、自分の課題に向かって取り組めるようにする。
- ICT機器を活用するなどして、興味を引く見本や分かりやすい資料を提示し、児童が視覚的に理解できるようにする。
- 段階的に学習を進めるなど学習内容を工夫し、児童の「できた。もっとやってみたい。」を引き出す。
- 児童が主体的に学習に取り組み、生活を工夫する楽しさやものをつくる喜びを味わえるようにする。
- 自分の生活を見つめ、よりよい家庭生活について考えさせ、学習したことを自分なりに工夫して継続的に実践しようとする力を付けさせる。
- 家庭での事情を配慮したうえで、家族との関わりを深め、家族の一員としての自覚をもって生活していることが実感できるよう、授業や課題等を意図的に設けるようにする。
- 実習では、地域学校協働本部と連携し、地域人材を活用するなどして、個別の支援ができる体制を整える。
- タブレット端末を活用し、考えを広めたりまとめたりすることを通して、考えを深められるようにしていく。